

# ヨーロッパの戦争と、露骨なプロパガンダの出現

## ロシア-ウクライナ関係を正しく理解するために

John Pilger

February 20, 2022, Information Clearing House

マーシャル・マクルーハンの「政治の後からプロパガンダがやってくる」という予言はその通りだった。露骨なプロパガンダが、現在、西洋の民主主義のルールとなっており、特にアメリカとイギリスに著しい。

戦争と平和の問題については、政府による騙しが、ニュースとして報道される。不都合な事実は検閲され、悪人が養育される。そのモデルは、企業メディアの作り話、時代の通貨である。1964年にマクルーハンが、「メディアはメッセージだ」と言ったのは有名である。現在は、ウソがメッセージである。

しかしこれはニュースか？ ウソ物語の父、エドワード・バーネイズが、戦争のプロパガンダを隠すのに「パブリック・リレーションズ」という言葉を発明して以来、1世紀以上になる。何が新しいかと言えば、主流メディアにおける、事実上の反対意見の抹殺である。

The Captive Press の著者で、偉大な編集者の David Bowman は、こういうやり方は、「方針に従って、嫌なものを呑み込むことを拒否する、勇敢な者たちのすべてを、ごっそり追放すること」だと言った。彼が言っていたのは、独立したジャーナリストで警笛を鳴らす者、正直で独立独歩の、かつてメディアの組織がスペースを与えた者たちで、しばしば誇りを持っていた者たちのことである。このようなスペースは廃止された。

最近、数週か数か月の間に、津波のように起こってきた戦争ヒステリーが、その最も顕著な例である。それは「物語づくり」と隠語で呼ばれているもので、その全部ではないとしても、ほとんどが純粋なプロパガンダである。

ロシアがやってきたぞ。ロシアは悪いというより、もっと悪い。プーチンは悪だ、「ナチのようなヒトラーだ」と、英労働党の Chris Bryant は、口角泡を飛ばした。ウクライナは、ロシアに侵略されようとしている——今夜にも、今週、来週にも。そのソースには、前 CIA プロパガンディストで、現在、米務省のために喋る男がいる。彼はロシアの行動について主張するが、何の証拠も出せない。ただ「アメリカ政府からきたものだ」と言っている。

この「証拠なし」ルールは、ロンドンにも当てはまる。英外務長官 Liz Truss は、私的な飛行機でオーストラリアまで飛び、50万ポンドという公金を使って、キャンベラ政府に警告し、ロシアと中国が飛びかかろうとしていると警告し、証拠は示さなかった。反対側の人物は頷き、この「物語」に異は唱えなかった。一人だけ例外がいて、元首相のポール・キートンが、トラスの戦争宣伝を「痴呆的」だと言った。

トラスは、愚かにも、バルト海と黒海の国々を混同していた。モスクワで彼女は、ロシアの外務大臣に対し、イギリスは決して、ロシアの、ロストフとヴォロネジに対する主権を、認めることはできないと言った。ところが彼女は、これらの場所は、ウクライナの一部ではなく、ロシアにあるのだと指摘された。ロシアの新聞を読んで、このダウニング街10番地の主を名乗る女の、滑稽さと恥さらしをご覧になるとよい。

この笑劇の全体は、最近、ボリス・ジョンソンが、モスクワにおいて、彼の英雄のチャーチルの道化役として紹介され、風刺として楽しめるはずだったが、事実と歴史的理解をひどく歪められ、また現実の戦争の危険のために、実現しなかった。

ウラジミール・プーチンは、ウクライナの東部ドンバス地区の「ジェノサイド」に言及している。2014年のウクライナ・クーデタの後で——バラク・オバマの、キエフにおける重要人物、ビクトリア・ヌーランドが音頭を取った——ネオ・ナチのはびこるクーデタ体制が、ロシア語を話すドンバス地区に対して、残忍なテロ・キャンペーンを行った。この地区はウクライナ人口の3分の1を構成している。

キエフにいた CIA 長官ジョン・ブレナンに監視されて、「特別安全保障部隊」が、クーデタに反対するドンバスの人々に対して、野蛮な攻撃を指揮した。ビデオや目撃証言によると、オデッサ市の労働組合本部を、ファシストの殺し屋が焼き討ちし、屋内に閉じ込められた41人を殺した。警察は傍観していた。オバマは、「正しく選ばれた」クーデタ政府が「すぐれた抑制」を示したと褒めた。

アメリカのメディアでは、オデッサの残虐事件は、「曖昧だ」と過小評価され、これは「ナショナリスト」（ネオ・ナチ）が「分離派」（ウクライナ連合に国民投票によって集合した人々）を攻撃した「悲劇」だと言った。ルーパーと・マードックの Wall Street ジャーナルは、被害者たちを断罪した——「これは反乱者の放火によるものか、恐ろしいウクライナの火事——政府談」

ロシアに関するアメリカの主導的権威者と目される、スティーブン・コーエン（Cohen）はこう書いた——「ポグロムのような、民族的ロシア人や他の人々への、このオデッサで

の焼き討ち事件は、第2次大戦のウクライナの、ナチによる絶滅部隊の記憶をよみがえらせる。今日の、嵐のような、ゲイや、ユダヤ人や、年配の民族的ロシア人や、他の〈不純な〉市民たちへの攻撃は、キエフに支配されたウクライナ全土に広がっており、松明の行進とともに、1920年後期と30年代に、究極的にドイツを燃え上がらせた事件を思い出させる…

「警察と政府関係者は、これらネオ・ファシストの行為をやめさせたり、起訴したりする、事実上どんなこともやっていない。それどころか、キエフは公然と彼らを援助して、組織的に彼らを立ち直らせ、ナチスドイツによる絶滅ポグロムへの、ウクライナ人協力者を記念して、通りの名を変えたり、記念碑を建てたり、歴史を書き換えたりさえしている。」

今日、ネオ-ナチ・ウクライナという名はめったに聞かれない。イギリス人が、ネオ-ナチを含め、ウクライナの自衛兵を訓練していることは、ニュースにならない。暴力的な、承認されたファシズムが、21世紀のヨーロッパに戻ってきた事実は、ハロルド・ピンターの言葉を借りれば、「決して起こらなかった——目の前で起こっても起こらなかった。」

12月6日、国連は、ナチズムや、ネオ-ナチズム、その他の「人種差別の現代の形を煽るような習慣を、栄光化することと戦う」要求の決議を提出した。**それに反対の投票をした国家は、アメリカとウクライナだけだった。**

ほとんどすべてのロシア人が知っていることだが、1941年、ウクライナのナチ信者や協力者に応援されて、ヒトラーの分遣隊が、西から襲ってきたとき、彼らは、ウクライナの「国境地帯」の平原を越えてきた。**そのとき結果として、2千万人以上のロシア人が死んだ。**

地政学の戦略や皮肉は別として、またその役者が誰かを問わず、**この歴史的記憶こそ、尊敬を求め、自己保護の安全保障を提案する、ロシア人の背後に働く力である。**それは国連が、ナチズムを130対2で、追放すべきものと決定した週に、モスクワで公表された。以下のように——

—NATOは、ロシアに隣接する国々に、ミサイルを配備しないことを保証する。(それはすでに存在する——スロベニアからルーマニアまで、ポーランドがそれに続いて。)

—NATOは、ロシアに隣接する国々や海域での、陸海軍の演習を中止する。

—ウクライナは、NATOの加盟国になることを望まない。

—西洋とロシアは、東西安全保障条約を結ぶ署名をする。

—米と露の中間領域におよぶ、核兵器の境界条約を復興させる。(アメリカは2019年にそれを放棄した。)

これらは、戦後ヨーロッパすべての、平和計画の包括的な草案として、西洋に歓迎されてしかるべきものである。しかし、英国で、それらの意味を理解している者がいるか？ 彼らが教えられているのは、プーチンは下層民で、キリスト教国にとって脅威だということである。

ロシア語を話すウクライナ人たちは、7年間、キエフによって経済的に封じられ、生き延びるために戦っている。あまり聞いたことのない「団結した」軍隊は、13のウクライナ軍連隊で、ドンバスを包囲しようとしている。推計15万人の部隊である。もし彼らが攻撃すれば、ロシアへの挑発となり、それはほとんど確実に戦争を意味するだろう。

2015年、ドイツ人とフランス人に仲介されて、ロシア、ウクライナ、ドイツおよびフランスの大統領たちが、ミンスクに集まり、暫定的な平和条約にサインした。ウクライナは、現在、ドネツクとルガンスクの共和国を自ら宣言しているドンバス地区に、自治権を与えることに合意した。

しかしミンスク合意は、まったく機会を与えられなかった。イギリスは、ポーリス・ジョンソンの代表するせりふで、ウクライナは世界の指導者たちに〈指図されている〉と言った。実はイギリスは、ウクライナを武装させ、軍隊を訓練しているのである。

最初の冷戦以来、NATOは効果的に、ロシアの最も敏感な国境に、直に侵攻しており、彼らはすでに、ユーゴスラビア、アフガニスタン、イラク、リビアに、流血の侵略を宣言し、撤退するという厳粛な約束を破っている。彼らは、関心のないヨーロッパの〈同盟国〉を、アメリカの戦争に引っ張り込んでいる。ここで口にされない最も重要なことは、**NATO自体がヨーロッパの安全保障にとって、真の脅威だということである。**

イギリスでは、国家とメディアの外国恐怖症が、「ロシア」のひと言で火が付く。BBCがロシアを報道するときの、条件反射のような敵意を見るがよい。なぜだろう？ 帝国主義の神話が、特に、永遠の敵を要求するのだろうか？ もっと大人になって欲しいものだ。

### [訳者 Greatchain 注]

John Pilger (ピルジャー)は、おそらく世界で最も尊敬される、独立ジャーナリストの一人である。彼がStephen Cohenという、やはり、ロシア研究の権威者を引きながら話す内容は、新聞で読むロシアの話とは、正反対のものであることがわかるだろう。それは食い違いではない。正反対である。これを一読する人は、なぜロシアやプーチンが、ウクライナに対する「侵略の野心」などというものを、持たないかがわかると思う。ロシ

アという国全体が、長い歴史を通じて、霊肉ともに圧倒的な苦痛を耐え忍んで、生まれてきた国であり、「侵略」など思いもよらないはずなのである。それはプーチンの言動に、常ににじみ出ている。これは米英の政治家のように、甘やかされて育った「金持ちのドラ息子」のような、思い上がった者たちとは違っている。エドガー・ケーシーの予言では、最終的に、ロシアが世界を支配すると言っているが、これには、積み重ねた精神的な土壌と一体の「祖国愛」が条件になっていると思う。